

宣戰の詔書（日清戦役）

天佑ヲ保全シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル日本帝國  
皇帝ハ忠實勇武ナル汝有衆ニ示ス  
朕茲ニ清國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ百億有司宜  
ク朕カ意ヲ體シ陸上ニ海面ニ清國ニ對シテ交戦  
ノ事ニ從ヒ以テ國家ノ目的ヲ達スルニ努力スヘシ  
苟モ國際法ニ戾ラサル限リ各々權能ニ應ジテ  
一切ノ手段ヲ盡スミテ必ズ遺漏ナカラムコトヲ期セヨ  
惟ク朕カ即位以來茲ニ二十有餘年文明ノ化  
ヲ平和ノ治ニ求メ事ヲ外國ニ構フルノ極ノニ至可  
ナルヲ信シ有司ヲシテ常ニ友邦ノ誼ヲ篤クスルニ努

カセシメ奉ニ列國ノ交際ハ年々遂ニテ親密ヲ加フ  
何ソ料ラム清國ノ朝鮮事件ニ於ケル我ニ對シ  
テ着着鄰交ニ戻リ信義ヲ失スルノ舉ニ出  
テムトハ

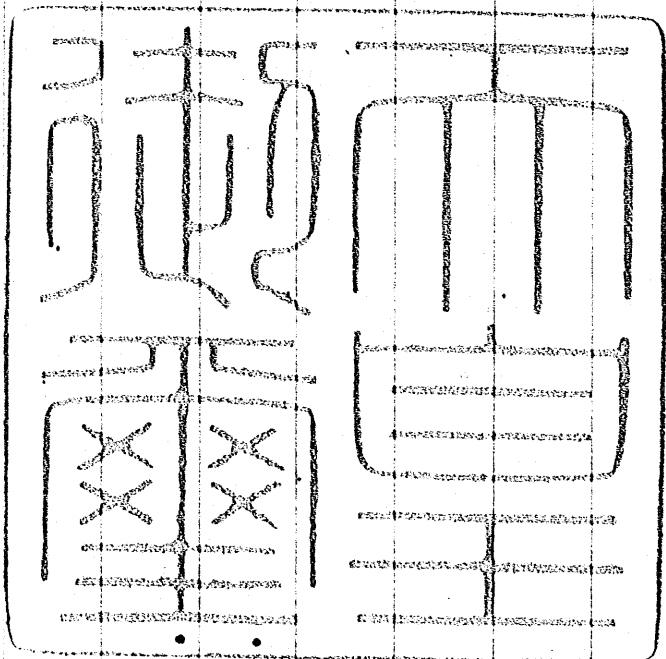
朝鮮ハ帝國カ其始ニ啓誘シテ列國ノ伍伴ニ就カ  
シメタル獨立ノ一國タリ而シテ清國ハ毎ニ自ラ朝  
鮮ヲ以テ屬邦ト稱シ陰ニ陽ニ其内政ニ干涉シ其  
内乱アルニ於テ口ヲ屬邦ノ拯難ニ藉キ兵ヲ朝  
鮮ニ出シタリ朕ハ明治十五年ノ條約ニ依リ兵  
出シテ變ニ備ヘシメ更ニ朝鮮ヲシテ禍乱ヲ永遠

ニ免レ治在ラ将来ニ保タシメ以テ東洋全局ノ  
平和ヲ維持セムト欲シ先ツ清國ニ告クルニ協同事  
ニ從ハムコトヲ以テシタルニ清國ハ翻テ種々ノ辭柄ヲ  
設ケ之ヲ拒ミタリ帝國ハ是ニ於テ朝鮮ニ勸ム  
ルニ其秕政ヲ釐革シ内ハ治安ノ基ヲ堅クシ外ハ  
獨立國ノ權義ヲ全クセムコトヲ以テシタルニ朝鮮ハ  
既ニ之ヲ肯諾シタルモ清國ハ終始陰ニ居ラ百方  
其目的ヲ妨碍シ刺ハ辞シ左右ニ托シ時機ヲ緩  
ニシ以テ其水陸ノ兵備ヲ整ヘ一旦成ルヲ告クルヤ  
直ニ其力ヲ以テ其欲望ヲ達セムトシ更ニ大兵ヲ

韓土ニ派シ我艦ヲ韓海ニ要撃シ殆ト亡状ヲ極  
メタリ則チ清國ノ計図ハ明ニ朝鮮國治安ノ  
責ヲシテ歸スル所アラサシメ帝國カ率先シテ  
之ヲ諸獨立國ノ列ニ伍セシメタル朝鮮ノ地位之  
ヲ表示スルノ條約ト共ニ之ヲ蒙晦ニ付シテ帝國  
ノ權利利益ヲ損傷シテ東洋ノ平和ヲシテ永ク  
擔保ナカラシムルニ存スルヲ疑スカラス熟ク其為スルニ  
就テ深ク其謀計ヲ存スル所ヲ揣ルニ實ニ始メヨリ平  
和ヲ犧牲トシテ其非望ヲ遂ケムトスルモノト謂ハルハ  
カラス事既ニ茲ニ至ル朕平和ト相終始シテ以テ帝國

ノ光榮中外ニ宣揚スルニ專ナリト雖亦公ニ戦フ宣サ  
ルヲ得サレリ汝有衆忠實勇武ニ倚賴ニ速ニ平和ヲ  
永遠ニ克復シ以テ帝國ノ光榮ヲ全セトシテ期ス

睦仁



明治二十七年八月一日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文	遞信大臣伯爵黒田清隆	海軍大臣伯爵西郷從道	内務大臣伯爵井上馨	陸軍大臣伯爵大山巖	農商務大臣子爵榎本武揚	外務大臣	陸奥省	渡邊國武	井上	文部大臣
--------------	------------	------------	-----------	-----------	-------------	------	-----	------	----	------

司法大臣

芳川顯正